

1 概要

- (1) 平成 30 年度地方創生交付金事業の検証について **資料 1**
- ・平成 30 年度の交付金実績、事業詳細について説明。
 - ・平成 30 年度の重要業績評価指標（KPI）のオープンデータライブラリ閲覧件数の目標数 1,000 件に対し、実績値 2,078 件であり、目標値を達成できていることを報告。
 - ・KPI のオープンデータライブラリを活用した新規事業の件数の目標数 8 件に対し、実績値 9 件であり、目標値を達成できていることを報告。
 - ・KPI のアウトカムについての検証を行い、KPI を十分達成しているという評価となった。
- (2) 令和元年度 事業スケジュールについて **資料 2**
- ・令和元年度の普及・啓発活動として、オープンデータワークショップ、職員研修及びシビックパワーバトルを実施予定であることを説明し、了承を受けた。

2 意見等

- (1) 平成 30 年度地方創生交付金事業の検証について
- 【戸田委員】**
オープンデータカタログサイトを使用している人の年齢、性別等の内訳は分からないか。
- 【事務局】**
個人の属性は分からないが、どのサイトが良く使用されているかは把握している。
- 【戸田委員】**
ダウンロードされているのは、空間情報が多いのか。
- 【事務局】**
お見込みのとおり。また、人口や三遠南信地域全体をまとめたデータも多い。
- 【上杉副委員長】**
9 件以外にも民間利用されている可能性はあるのか。
- 【事務局】**
外部事業者は自己申告なので、9 件以外でどれだけ使われているか把握できない。
- 【田中副委員長】**
活用事例の項目はどのようにして選択したのか。

【事務局】

事務局がマッピングして、興味を持ってもらえると考えるもので作成した。

【駒木委員】

39 のデータセットを選んだ理由は。

【事務局】

39 市町村のデータが集まる国の統計からデータを集めた。

【駒木委員】

時系列で比較ができるように、過去のデータもあると比較に使えるので良いのではないか。また、GIS 関係の緯度、経度が入った情報は、国土数値情報等で取得しやすいものがあるため、充実させるとよいと思う。

39 のデータの内、サイト公開当初から増やしたものは有るか。

【事務局】

当初は 30 だったので、9 つ増やしている。

【駒木委員】

国土数値情報や、e-start にない SENA オリジナルのデータがあるとおもしろいのではないか。例えば、ツイートのデータなどがあると民間企業の利用等に繋がるのではないか。

Tableau で作成したデータは SENA の HP 上で見られるか。

【事務局】

見られる。データセットの 1~16 までは、SENA が市町村にお願いして集めた独自のデータである。

【駒木委員】

データセットの 1~16 が SENA 独自ということは、もっとアピールしたほうがよい。

【戸田委員】

空間の単位はどこまで落とせるのか。例えば、指定した範囲で指定できるのか。

【事務局】

緯度、経度が入った CSV のデータを使用しているので、指定はできる。

【駒木委員】

データを集めるのは大変だが、データを揃えて、データがあることをアピールしていくことが重要。

また、古いデータを随時最新に更新していく必要があるなので、更新等に係るランニ

ングコストをどうしていくか考えていかなければならない。

【戸田委員】

分析のやり方の例示のようなものはあるか。

【事務局】

P.4のとおり可視化して Tableau で例示を行っている。

【駒木委員】

交通関係のデータが少ないが、バスやバス停などの日常の交通に係る情報等があると民間活用がしやすくなるのではないか。

【上杉副委員長】

令和元年度の予算の使い道はどのような予定か。

【事務局】

サイトの運用管理については、SENA で毎年契約し運用していく。データの編集、格納等は SENA の担当作業となる。

【駒木委員】

観光に関わるデータは需要が高いので、あると便利ではないかと思う。

【戸田委員】

オープンデータとビジョンが連動していると良いのではないか。

【田中副委員長】

オープンデータから得られた情報を分析して、更にオープンデータにしていくといった循環があると需要にあったデータの整備ができるのではないか。

(2) 拡大幹事会について

【上杉副委員長】

シビックパワーバトルは、ワークショップの委託業者が実施するのか。

【事務局】

シビックパワーバトルを運営する、シビックパワーバトルアライアンスと協力して実施していく。

【駒木委員】

来年度以降で、ワークショップなどを既存の別のイベント、例えば、インスタグラムを利用したフォトコンテストなどと併せて実施できると良いのではないか。

また、新人研修などの研修に組み込んでもらおうと良いのではないか。

データを利用している団体と情報交換等から連携したり、大学との連携をしたりできると良いと思う。

【戸田委員】

事業は3年で終了となるので、事業終了後継続的にどのように動かしていくか検討していく必要がある。キーパーソンとの関わり方を考えるように。

【上杉副委員長】

民間に使ってもらうのが一番だと思うが、難しいのでやり方を考えるとよい。

【駒木委員】

データをシステムチックに収取できる仕組みを作れると良い。また、データを頻繁に使用してくれる人を探すのも良いと思う。

【湯口委員】

例えば広域的に捉えた観光的な外国人旅行者の情報など、実利に繋がる情報があると良いと思う。

平成 30 年度 三遠南信地域情報活用・発信事業 検証委員会 出席者名簿

(敬称略)

検証委員

分類	団体	役職	氏名
委員長	浜松市	企画課大都市制度・広域行政担当課長	原川 知己
副委員長	豊橋市	政策企画課長	上杉 裕一
副委員長	飯田市	企画課長	田中 克己
委員	浜松商工会議所	理事・総務企画部長	湯口 哲世
委員	豊橋商工会議所	企画振興部長	鴨下 真也
委員	飯田商工会議所	事務局長	佐々木 正樹
委員	愛知大学	教授・三遠南信地域連携研究センター長	戸田 敏行
委員	愛知大学	教授	駒木 伸比古